

都市再生整備計画 事後評価シート
豊後高田昭和の町地区

平成28年2月

大分県豊後高田市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	大分県	市町村名	豊後高田市	地区名	豊後高田昭和の町地区			面積	87.7 ha
交付期間	平成23年度～27年度	事後評価実施時期	平成27年度	交付対象事業費	358.2百万円	国費率	0.45		

1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	事業名		
		提案事業	○地域創造支援事業(修景・チャレンジショップ等支援事業) ○まちづくり活動推進事業(中心市街地活性化協議会支援)		
	当初計画から削除した事業	基幹事業	○高次都市施設(観光交流センター:昭和の町新拠点施設)	整備内容の精査及び整備スケジュールの変更により、現計画期間内で当該施設の整備に着手できないため	観光振興、商業活性化、定住促進に関係するが、他事業の影響も大きいことから数値目標は据え置く
		提案事業	なし		
	新たに追加した事業	基幹事業	○公園(御玉市民公園(仮称)整備)	新たなコミュニティの場を創出し、高齢者をはじめ、多くの市民が楽しみ・学び・輝けるまちづくりを推進して定住魅力の向上を図るため事業を追加(第1回変更)	観光振興、商業活性化、定住促進に関係するが、他事業の影響も大きいため、目標指標は据え置く
			○高質空間形成施設(玉津プラチナ通り美装化)	市民が安全快適に、かつ楽しく商店街内を散策できる環境づくりを図るために、市道新町上町線の改修に合わせて事業を追加(第3回変更)	商業活性化、定住促進に関係するが、指標への影響は間接的であるため数値目標は据え置く
			○高質空間形成施設(宮町商店街景観形成等魅力向上施設)	宮町商店街において、商店街の個性や雰囲気に合ったグレードの高い街並み景観を創出するため事業を追加(第3回変更)	昭和の町並みの質の向上を通じて観光振興、商業活性化に関係するが、指標への影響は間接的であるため数値目標は据え置く
			○高質空間形成施設(昭和の町街路灯)	街路灯の整備により、夜間の安全性を高めるとともに、通りの賑わい創出を図るため事業を追加(第3回変更)	観光振興、商業活性化、定住促進に関係するが、指標への影響は間接的であるため数値目標は据え置く
			○高質空間形成施設(上町線美装化)	道路の美装化(石畳風景観舗装)を通じて「高齢者が楽しいまちづくり」を促進するため事業を追加(第6回変更)	商業活性化、定住促進に関係するが、指標への影響は間接的であるため数値目標は据え置く
			○高質空間形成施設(御玉1号線美装化)	道路の美装化(カラー舗装)を通じて「高齢者が楽しいまちづくり」を促進するため事業を追加(6回変更)	商業活性化、定住促進に関係するが、指標への影響は間接的であるため数値目標は据え置く
			○高質空間形成施設(宮町ロータリーグレードアップ)	明るく、集客効果を高めるロータリーへとグレードアップし賑わいの場としての機能を発揮させるため事業を追加(第6回変更)	観光振興、商業活性化に関係するが、指標への影響は間接的であるため数値目標は据え置く
			○高次都市施設(地域交流センター:市民コミュニティプラザ)	市民活動(NPO、ボランティア等)の支援を一層充実するため事業を追加(第4回変更)	市民活動の活性化を通じて、観光振興、商業活性化、定住促進に関係するが、指標への影響は間接的であるため数値目標は据え置く
	交付期間の変更	当初	平成23年度～27年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響	
変更		なし			
		提案事業	○事業活用調査(市庁舎跡地等の活用方策検討調査)	市庁舎移転後の跡地について、玉津地区、桂川河川敷、新図書館などの周辺施設等に配慮した一体的な整備を行うために事業を追加(第2回変更)	市庁舎跡地の検討であり、指標への直接的な影響はないため数値目標は据え置く

	指 標			従前値		目標値		数 値		目標 達成度	1年以内の 達成見込み	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期
		単位	基準年度		目標年度		モニタリング	評価値					
2)都市再生整備計画 に記載した目標を 定量化する指標 の達成状況	指標1	来訪者数	人/年	333,488	H21	400,000	H27		326,848	△	あり なし	● イベント等の開催や、昭和ロマン蔵やボンネットバスなどの既存資源の活用による集客力の向上、ロータリーやモニュメント、店舗の修景など昭和の町の雰囲気づくりの充実により、平成23年度には目標値を上回るなど、観光客の誘客に一定の効果があつた。昭和の町新拠点施設等の事業着手の遅滞があり、目標値を達成することはできなかったが、本計画以前のトレンドに基づく推計値を上回っており、近年の傾向よりは改善がみられる。	平成28年4月頃
	指標2	滞留時間	分	94.3	H21	106.5	H27		79.7	×	あり なし	● 新図書館開設や既存資源の魅力向上、昭和の雰囲気づくりの充実などによる回遊促進、玉津地区での道路の美化などによる安全・快適で楽しい道路空間の形成を通じた高齢者が楽しい商店街の形成に一定の効果があつたものの、昭和の町新拠点施設等の事業着手の遅滞があり、新たな立ち寄り先が創出できなかったことや、来街者の旅行パターンが市内の観光地等と合わせた周遊型へシフトしたことなどもあり、目標値を達成することはできなかった。	平成28年6月頃
	指標3	転出者人口の割合	%	4.9	H21	4.6	H27		4.2	○	あり なし	— — 庁舎跡の公園整備が遅滞したものの、新図書館の建設や旧図書館・空き家を活用した交流施設整備などによるコミュニティの場の創出・強化、並びに地区内道路の路面補修や美化などによる安全・安心で、快適かつ楽しい道路空間の形成により、地区内の居住環境が高まり、目標値を達成した。	平成28年5月頃
3)その他の数値指標 (当初設定した数値 目標以外の指標)に よる効果発現状況	指 標			従前値		目標値		数 値		目標 達成度※1	1年以内の 達成見込み	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期
	その他の 数値指標1	単位	基準年度		目標年度		モニタリング	評価値					
	市内観光地への立ち寄り割合	%	15.8	H22					17.4			市内観光地への立ち寄り割合は本計画以前より増加しており、また、県内の観光交流客数が横ばいとなる中、市内の主要観光地における入込客数は、本計画以前の水準に比べ微増となっている。昭和の町が豊後高田市の観光の“玄関口”になって、効果が市内全域に波及する状況が生まれてきていると想定される。	平成28年6月頃
	その他の 数値指標2	市中心部の居住人口	人	4,308	H22				4,400			市全体の人口が減少傾向にある中、本計画区域内の人口はほぼ横ばいで推移し、また隣接するエリアにおいては人口が増加している。本計画の各事業により中心市街地の魅力が高まり、結果として、中心市街地とその周辺を含む市中心部への定住促進が図られたと想定される。	平成28年5月頃
4)定性的な効果 発現状況	・既存資源の活用による集客力の向上や昭和の町の雰囲気づくりの充実、歩いて楽しい商店街づくりなどの取組みにより、昭和の町及び周辺部での創業希望者が増加、移住者や若者の創業(8件)につながり、空き店舗の解消、街並み景観の向上、賑わい創出など、商業活性化に効果があつた。 ・昭和の町の魅力向上等により、ホテル宿泊者数が大幅に増加し、また玉津の蕎麦屋には多数の市外からの来客があるなどの効果があつた。 ・玉津地区では、空き家を活用した玉津コミュニティカフェ「こいこい」がオープンし高齢者をはじめ多様な世代の憩い・交流の場となるとともに、新聞社による文化・教養教室が開催され学びの場へと広がっている。 ・また、安全・快適で楽しい道路空間の形成など高齢者が楽しい商店街づくりが進み、玉津まちの駅「夢むすび」の農産物直売額は増加傾向で推移している。 ・中心市街地に楽しく歩けるウォーキングロードを整備した結果、多くの市民が歩く姿を見かけるようになり、町中の魅力向上や賑わいの創出が図れた。												
5)実施過程の評価				実施内容				実施状況				今後の対応方針等	
	モニタリング	指標値の計測・集計の実施によるモニタリング			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● ● ●				来訪者数、滞留時間など基本的な指標については継続的に計測・集計し、モニタリングを行う。
	住民参加 プロセス	①玉津プラチナプロジェクト ②中心市街地活性化協議会支援			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				●② ●① ●				①今後も引き続きプロジェクトを開催しながらまちづくりを推進する。 ②今後も引き続き協議会を開催しながらまちづくりを推進する。
	持続的なまちづくり 体制の構築	①豊後高田市観光まちづくり会社の機能強化 ②中心市街地活性化協議会の機能充実			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● ● ●				①豊後高田市観光まちづくり会社については、自立性を高めつつ、引き続き、市、商工会議所と一体となって、商業と観光の一体的推進に向けた活動を行う。 ②中心市街地活性化協議会については、今後のまちづくりのあり方の協議・研究を行う地域の基礎的な組織として、継続して協議会の開催と活動を行う。

様式2-2 地区の概要

豊後高田昭和の町地区(大分県豊後高田市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標		目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目 標 昭和30年代の懐かしさとブラチナの輝きで活力あふれるまちづくり ～豊後高田昭和の町地区第二期活性化計画～		来訪者数	単位: 人/年	333,488	H21	400,000	H27	326,848	H27
目 標 1 観 光 振 興	懐かしさと輝きが体感できる観光まちづくりの推進	滞留時間	単位: 分	94.3	H21	106.5	H27	79.7	H27
目 標 2 商 業 活 性 化	みんなに愛され利用される商店街づくりの推進								
目 標 3 定 住 促 進	楽しみ・学び・輝けるまちづくりの推進	転出者人口の割合	単位: %	4.9	H21	4.6	H27	4.2	H27



市道玉津海岸線施設等整備事業



御玉1号線美装化



宮町商店街景觀形成等魅力向上施設



宮町ロータリーグレードアップ



昭和の町街路灯



修景・チャレンジショップ等支援事業



拠点施設再点検強化事業



拠点施設活用事業



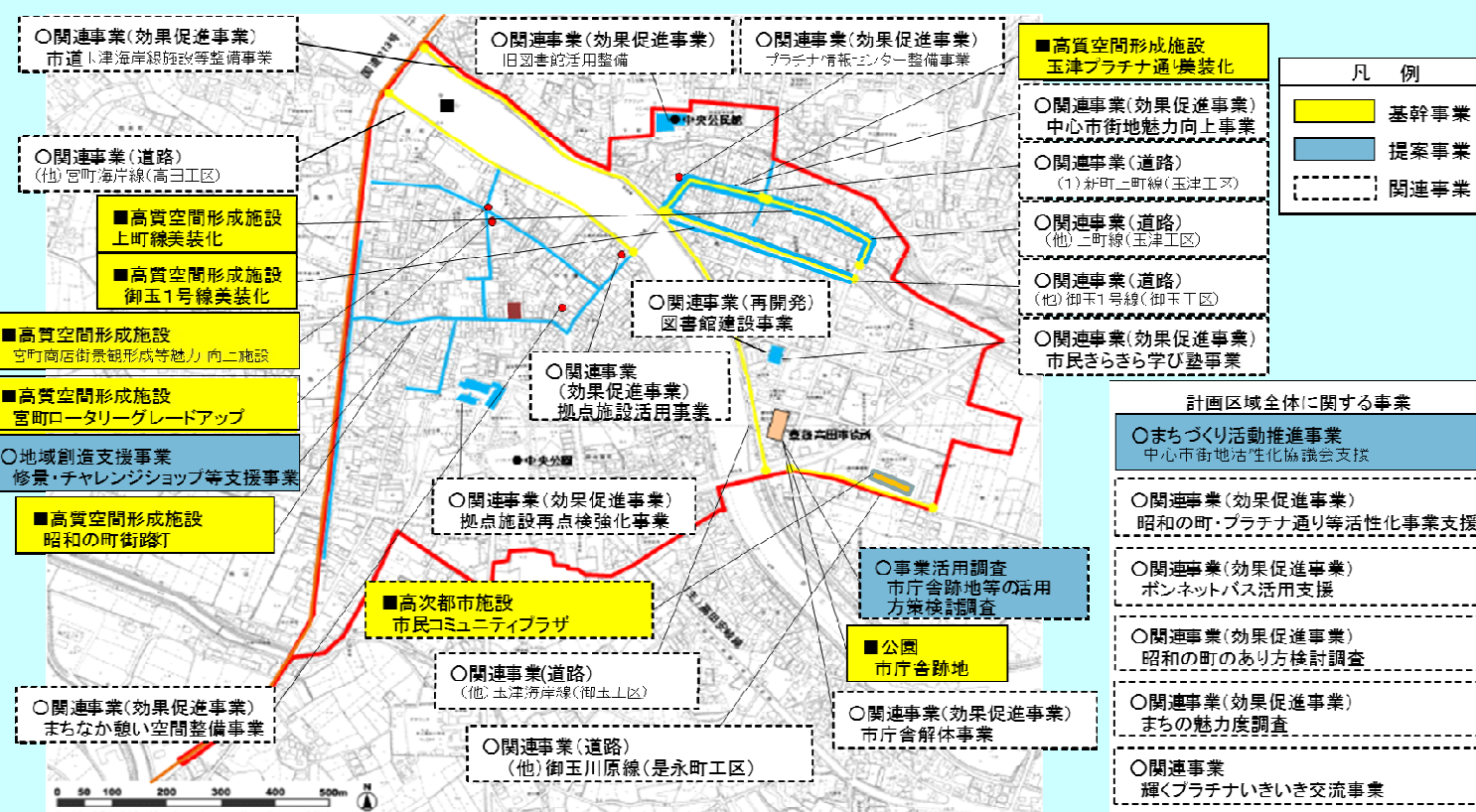
公園(市庁舎跡地)



ボンネットバス活用支援



中心市街地活性化協議会支援



旧図書館活用整備(そば道場)



プラチナ情報センター整備事業



玉津プラチナ通り美装化
中心市街地魅力向上事業



豊後高田昭和の町地区
暮らし・にぎわい再生事業
(図書館建設事業)

まちの課題の変化	【目標1 観光振興】 ○イベント等の開催や、昭和ロマン蔵やボンネットバスなどの既存資源のさらなる活用により、集客力が向上した。また、ロータリーやモニュメント整備、店舗の修景などにより、昭和の町の雰囲気が一層高まった。 ○一方、昭和の町の来訪者数は、平成23年度にイベントの開催等によって急増したものの、近年は減少傾向にあり、来訪者数の回復に向けて、引き続き、まちの魅力の創出・向上を図っていく必要がある。 ○また、マスメディア等による広報は、多くの観光客の関心を引き、まちの賑わい活性化に大きく貢献することから、イベントや施設リニューアルなど町のニュースを継続的に発信しつづけていく必要がある。さらに、昭和の町から市内観光地へ立ち寄るパターンなど市内周遊観光が芽生えつつあるため、昭和の町を市内周遊観光のポータルとして位置づけ、市全域の観光振興を図っていく必要がある。 【目標2 商業活性化】 ○図書館建設や新規店舗の出店、昭和ロマン蔵などの既存資源の魅力向上、ロータリーなどの整備による昭和の雰囲気を感じられるエリアの拡大などの組み合わせにより、回遊促進が図られ、まちの賑わい創出に一定の効果があつた。また、玉津地区では、道路の美装化などによる安全・快適で楽しい道路空間が形成され、高齢者が楽しい商店街の形成に一定の効果があつた。 ○一方、昭和の町における滞留時間は減少傾向にあり、賑わいの向上・商業の活性化に向けて、さらなる回遊の促進を図っていく必要がある。 ○昭和の町に来訪者の旅行パターンが、昭和の町のみ来訪から市内の観光と合わせた周遊型ヘムフトしてきていることに対応して、豊後高田市をメインとする観光の確立を目指し、昭和の町の魅力と回遊性の向上を図っていく必要がある。 【目標3 定住促進】 ○新図書館や新中央公園（前期計画にて整備）などの新たな施設や、旧図書館の有効活用、空き家を活用した交流施設の整備など、コミュニティの場の創出・強化が図られ、定住促進に一定の効果があつた。また、地区内道路の路面補修や側溝設置、美装化など、安全・安心で、快適かつ楽しい道路空間が形成され、居住環境の向上に一定の効果があつた。 ○転出者人口の割合は抑制されたものの、今後も少子高齢化の進展が予測されており、引き続き、さらなる定住促進を図っていく必要がある。
今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)	・本計画による効果を持続・発展させるとともに、残された課題や新たな課題に対応していくために次のような取り組みを行っていく。 ●昭和を感じるまちづくり ・昭和の町の雰囲気をより一層色濃く感じさせる新たな取り組みを行い、さらなる来訪者の増加と来訪者が昭和の町を一層楽しめる環境づくりを図る。 ●滞留・回遊が賑わいを呼ぶまちづくり ・観光施設や憩いの場、交流の場など多様な機能を提供することにより、まちでの滞在を豊かにし、賑わいを高めることで、一層の商業活性化を図る。 ●あらゆる世代が楽しめるまちづくり ・憩いの場や交流の場などの整備を進め、子ども・大人・プラチナ世代といったあらゆる世代が楽しめ、学べ、安心して公共サービスなどが受けられる居住環境を形成することなどにより、定住促進を図る。 ●昭和の町の集客力を活かした市全域の観光振興への展開 ・観光施設整備やイベント開催により、昭和の町の集客力をより一層高めるとともに、昭和の町を核とした市全域の観光振興につなげていく。 ●昭和の町の居住環境を活かした中心市街地とその周辺への定住促進によるコンパクトな都市構造の構築 ・公園や地域交流センター等の憩いの場やイベント開催等の交流の場の充実を図ることなどにより、まちなか居住の促進を図り、定住促進、コンパクトな都市構造の形成を推進する。